

古河電工グループ理念

基本理念	世紀を超えて培ってきた素材力を核として、絶え間ない技術革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。
経営理念	<p>私たち古河電工グループは、人と地球の未来を見据えながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公正と誠実を基本に、常に社会の期待と信頼に応え続けます。 ● お客様の満足のためにグループの知恵を結集し、お客様とともに成長します。 ● 世界をリードする技術革新と、あらゆる企業活動における変革に絶えず挑戦します。 ● 多様な人材を活かし、創造的で活力あふれる企業グループを目指します。
行動指針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常に高い倫理観を持ち、公正、誠実に行動します。 2. あらゆる業務において革新、改革、改善に挑戦し続けます。 3. 現場・現物・現実を直視し、ものごとの本質を捉えます。 4. 主体的に考え、互いに協力して迅速に行動し、粘り強くやり遂げます。 5. 組織を超えて対話を重ね、高い目標に向けて相互研鑽に努めます。

編集方針

古河電工では2011年まで、CSR(企業の社会的責任)の実践について報告する「CSR報告書」と、事業と財務の状況を報告する「アニュアルレポート」を毎年発行してきました。

しかし、これらの内容は当社グループのサステナビリティ(持続可能性)を語るうえで一体のものであります。そこで、2012年版から両レポートを統合し、「サステナビリティレポート」としました。初回となる今回は、新社長のメッセージとともに、

特集として、米国スーパーパワー社の買収などを通して事業化を加速している超電導事業の現状と展望を取り上げています。

なお、レポート内では重要性の高い情報のみ掲載し、その他のCSR情報は「CSR資料編」、財務情報(英文)は「Financial review」として、別途当社ホームページ上に詳細を開示しています。

報告対象範囲

対象組織

古河電工および関係会社を含めた古河電工グループを対象としています。

対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日

※ 一部にはこれまでの取り組みや2012年度の活動を含んでいます。

データの範囲

古河電工および連結対象子会社116社を対象としています。ただし、データの集計範囲が異なる場合には、該当箇所に範囲を明示しています。

発行時期

発行日:2012年8月20日

次回発行予定:2013年8月(前回2011年9月)

本報告書の開示情報の正確性の保証に関する考え方

開示情報の正確性を確保するために、当該情報に関する担当部門、広報を担当するIR・広報ユニット、報告書の編集を担当するCSR推進本部管理部で記載内容を精査しています。また、外部の専門家の意見を取り入れた報告書とするため外部有識者に第三者意見をいただいています。

今後につきましては、報告書開示内容について、第三者による保証等を検討していく予定です。

ホームページ

<http://www.furukawa.co.jp/csr/>

お問い合わせ先

古河電気工業株式会社 CSR推進本部 管理部

TEL:03-3286-3044 FAX:03-3286-3920

参考にしたガイドライン

「古河電工グループサステナビリティレポート2012」の作成にあたっては、GRIの「サステナビリティ・レポート・ガイディング・ガイドライン2006(第3版)」*および環境省の「環境報告ガイドライン2007年度版」を参考にしています。本報告書は、GRIにどの程度準拠しているかを示す「GRIアプリケーション・レベル」において、「B」の基準を満たしていると自己評価しています。

※ 本報告書との対応については、P.46「GRIガイドライン対照表」をご参照ください。

報告書適用レベル	C	C+	B	B+	A	A+
G3プロフィールの情報開示 OUTPUT	報告 1.1 2.1-2.10 3.1-3.8, 3.10-3.12 4.1-4.4, 4.14-4.15		レベルCの要求項目に以下を加える。 1.2 3.9, 3.13 4.5-4.13, 4.16-4.17		レベルBと同様	
G3マネージメント・アプローチの開示 OUTPUT	要求項目なし	外部保証を受けた報告書	各カテゴリの指標に対するマネージメント・アプローチの開示	外部保証を受けた報告書	各カテゴリの指標に対するマネージメント・アプローチの開示	外部保証を受けた報告書
G3と業種別補定文書のパフォーマンス指標 OUTPUT	パフォーマンス指標について少なくとも10の報告があること。そのうち、社会、経済、環境分野について少なくとも一つ報告があること。		パフォーマンス指標について少なくとも20の報告があること。そのうち、経済、環境、人権、労働、社会、製品責任分野について少なくとも一つ報告があること。		G3の中核指標及び業種別補定文書*のパフォーマンス指標に対応していること。重要性の原則を考慮して、a) 指標について報告、またはb) 指標の報告の省略の説明があること。	

※ 最終版の業種別補定文書

環境への取り組み
生物多様性に
関するプロジェクト
を実施

↓ P.26



特集
超電導分野の
グローバルトップ
サプライヤーへ。

P.11 →



New Frontiers of Innovation

古河電工グループ
サステナビリティレポート
2012



マネジメント強化の取り組み
BCAO
アワード2011受賞

↓ P.42

↑ P.30

社会への取り組み
第4回個人株主向け
工場見学会を開催



Contents

古河電工グループ理念／編集方針	01
目次	02
古河電工グループ概要	03
事業セグメント別の概況	05
ごあいさつ	07
特集	11
超電導分野のグローバル トップサプライヤーへ	
環境への取り組み	17
環境マネジメント	18
環境教育	19
マテリアルフロー	20
目標と実績(環境)	21
環境調和製品	22
環境配慮生産/化学物質管理	23
環境リスク管理	25
生物多様性保全	26

社会への取り組み	27
お客様との関わり	28
株主・投資家様との関わり	30
お取引先様との関わり	31
従業員との関わり	32
社会・地域との関わり	37

マネジメント強化の取り組み	39
コーポレートガバナンス	40
CSRマネジメント	41
目標と実績	44
第三者意見	45
GRIガイドライン対照表	46